

沖縄の日本復帰に対するハワイ在住ウチナーンチュの意識調査

岸本 弘人¹⁾

Attitude Survey of an Okinawan Living in Hawaii about Administrative Authority Return of Okinawa

Hiroto KISHIMOTO¹⁾

1 はじめに

2012 (平成24) 年は沖縄が日本へ復帰して40年の節目の年となった。沖縄県立博物館・美術館では、復帰40年記念博物館特別展「Okinawa から沖縄へ」を9月28日 (金) から11月25日 (日) まで開催した。この展示会では、沖縄が戦後、アメリカ統治下から日本に復帰するまでのいわゆる「アメリカ世」の中で、住民のおかれた困難な状況を示し、それから抜け出すために日本への復帰を求めた運動の過程を振り返ることを主眼としている。その上で、復帰後の様々な変化を扱い、沖縄が今後進むべき方向を考えってもらうことを目的とした。

沖縄は明治以降、他府県への出稼ぎや海外移住者を多く排出してきた。他府県在住のウチナーンチュは、それぞれの居住地の県人会を中心に沖縄の復帰運動に深く関わってきた。一方、海外へ移住したウチナーンチュが沖縄の復帰運動にどう関わったのかや、当時どの様に感じていたのかについてはあまり伝えられていない。遠く離れた地で故郷の劇的な変化をどのように見ていたのか。今回、当館では復帰40年記念特別展に関連して、ハワイへ移民した方々を対象に「沖縄の日本復帰に対する、ハワイ在住ウチナーンチュの意識調査」を実施した。

2 調査概要

(1) 調査実施主体:

沖縄県立博物館・美術館
ハワイ沖縄連合会

(2) 調査対象:

1972年以前にハワイ諸島へ移民したウチナーンチュで、60歳以上の男女

(3) 調査方法:

沖縄県立博物館・美術館がアンケートを作成。ハワイ沖縄連合会が英文に翻訳し、調査対象者へ配布。回収後、日本語に翻訳。沖縄県立博物館・美術館がデータの集計及び分析を行う。

ハワイ沖縄連合会との連絡・調整はEメールを用いた。

(4) 調査用紙配布数:

約400件、回収112件 回収率28%

(5) 調査時期:

2012年5月～7月

3 調査結果および若干の考察

Q1) あなたの年齢・性別を教えてください。

・年齢

80歳以上 - 29人 (27%)

70代 - 34人 (31%)

60代 - 35人 (31%)

50代以下 - 13人 (11%)

当初、調査対象者を1972年 (沖縄の日本復帰) 時点で20歳以上 (現在60歳以上) と設定していたが、20歳未満の人の回答が約11%あった。参考としてそれらのデータも集計に含めた。

・性別

1) 沖縄県立博物館・美術館 〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち3-1-1

Okinawa Prefectural Museum and Art Museum, 3-1-1, Omoromachi, Naha, Okinawa, 900-0006, Japan.

男性 - 44人 (39%)
 女性 - 66人 (59%)
 不明 - 2人 (2%)

Q 2) あなたの移民世代を教えてください。

1世 - 20人 (18%)
 2世 - 43人 (38%)
 3世 - 44人 (40%)
 その他・不明 - 5人 (4%)

1世の年齢

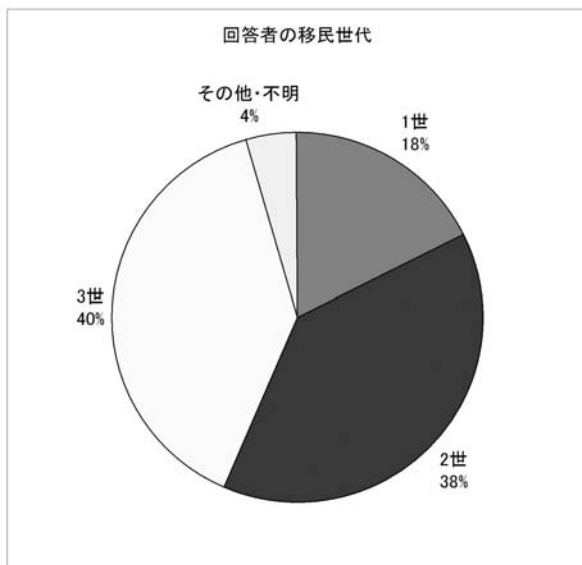
50代 - 2人、60代 - 9人、70代 - 5人、
 80代以上 - 3人

2世の年齢

50代 - 1人、60代 - 6人、70代 - 12人、
 80代以上 - 24人

3世の年齢

50代 - 8人、60代 - 19人、70代 - 15人、
 80代以上 - 1人



Q 3) 1世が渡布した年代を教えてください。

ハワイへ移住した年を西暦で記入してもらうために設問したが、2桁の数字の記入(1世が渡布した時の年齢か?)やクエスチョンマークが多かった。質問の意図がうまく伝わらなかったようである。

Q 4) 沖縄の施政権がアメリカから沖縄へ返されることを、1969年～1972年当時のあなたは知っていましたか?あてはまるところひとつにをつけてください。

よく知っていた。29人 (26%)

1世 - 14人
 2世 - 6人
 3世 - 8人

50代 - 3人
 60代 - 8人
 70代 - 10人
 80代 - 7人

少し知っていた。55人 (49%)

1世 - 4人
 2世 - 25人
 3世 - 25人

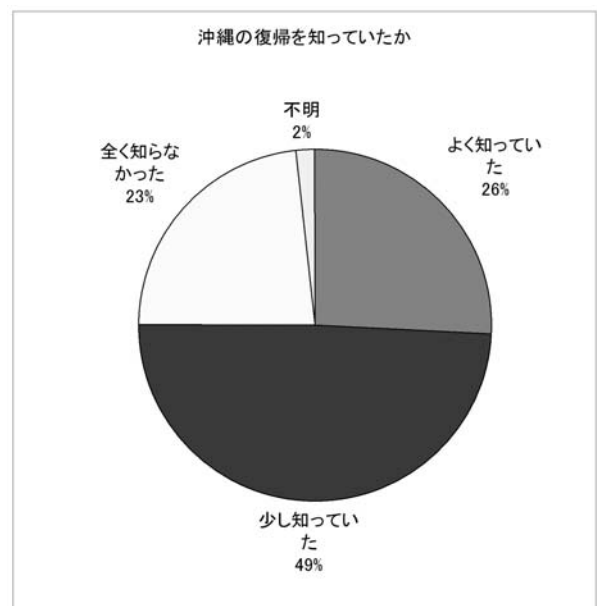
50代 - 6人
 60代 - 16人
 70代 - 17人
 80代 - 15人

まったく知らなかった。26人 (23%)

1世 - 1人
 2世 - 11人
 3世 - 11人

50代 - 3人
 60代 - 10人
 70代 - 7人
 80代 - 6人

不明 2人 (2%)



全体的な傾向として、「よく知っていた」と「少し知っていた」を合わせると75%となっており、多くの方が沖縄の復帰を認識していたことがわかる。特に移民1世は、ほとんど(19名中18名)が沖縄の復帰を認識していたことがわかる。2・3世ではそれぞれ約4分の1が「全く知らなかった」と回答し

た。

「全く知らなかった」と回答した人を年代別で見ると80代以上が6人と70代が7人おり、この年齢層の約2割にのぼる。この人々は1人を除いて2世または3世であった。沖縄の記憶がある1世に比べてハワイで生まれた2世や3世の場合はたとえ70代や80代以上であっても沖縄の日本復帰に対する関心が薄いことが分かった。

Q 5) 沖縄の施政権がアメリカから日本へ返されることについて、当時のあなたはどのように思いましたか？あてはまるところひとつにをつけてください。

とてもうれしかった。21人 (19%)

1世 - 13人

2世 - 3人

3世 - 4人

少しうれしかった。14人 (13%)

1世 - 1人

2世 - 7人

3世 - 6人

少し悲しかった。15人 (13%)

1世 - 3人

2世 - 4人

3世 - 7人

とても悲しかった。4人 (4%)

1世 - 0人

2世 - 0人

3世 - 4人

とくに何も思わなかった。51人 (45%)

1世 - 1人

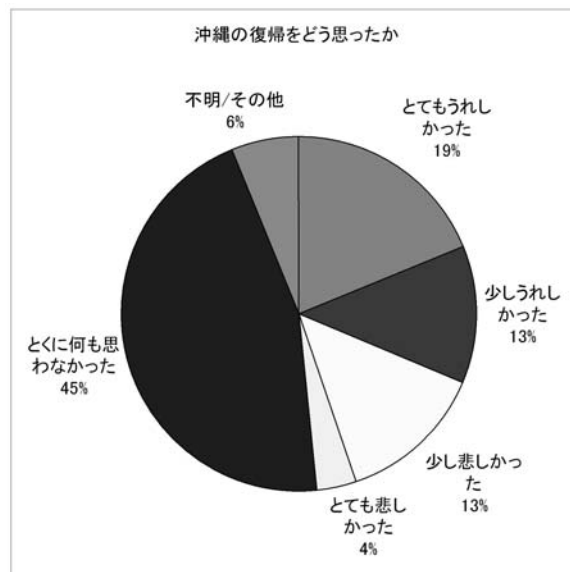
2世 - 26人

3世 - 23人

「とてもうれしかった」と、「少しうれしかった」を合わせると全体で32%を占めた。一方、「少し悲しかった」と「とても悲しかった」を合わせると17%にのぼった。また、約半数が「特に何も思わなかった」と答えている。

「とてもうれしかった」と回答したのは圧倒的に1世が多く「特に何も思わなかった」と回答したのはほとんど移民2・3世であった。ここでもハワイで生まれ育った2・3世の沖縄に対する関心が、1世

に比べて薄いことが浮き彫りになった。



Q 6) Q 5 で選択した項目について、その理由を教えてください。

「うれしかった」理由については、米軍がらみの被害が減少することへの期待など、沖縄側が日本復帰に込めた思いと同様な理由が挙げられた。

「悲しかった」理由としては「差別が悪化するのではないかと思った」(3人)、「沖縄や親戚が遠くなる気がした」(2人)、「方言しか話せない両親がどうなるか心配だった」(1人)、「沖縄の人々の気持が含まれていなかった」(1人)などが挙げられた。

Q 7) あなたの祖父母やご両親は沖縄の施政権がアメリカから日本へ返されることに対して、当時どんな様子でしたか。あてはまるところひとつにをつけてください。

とても喜んでいて。15人 (13%)

1世 - 10人

2世 - 3人

3世 - 1人

少し喜んでいて。5人 (4%)

1世 - 1人

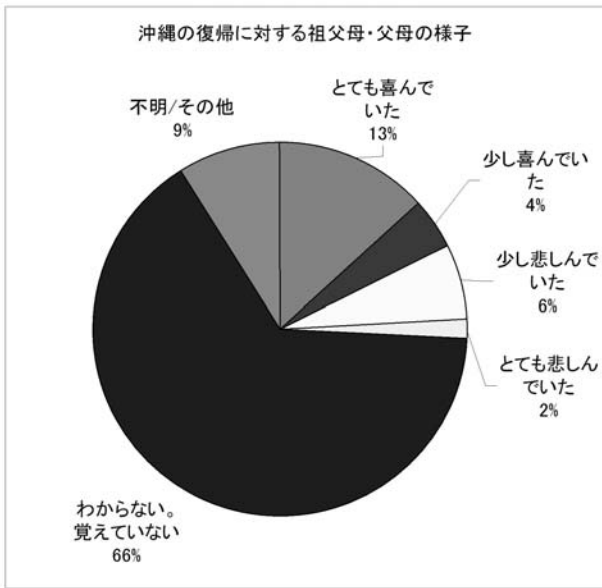
2世 - 1人

3世 - 3人

少し悲しんでいて。7人 (6%)

1世 - 2人

2世 - 1人
 3世 - 4人
 とても悲しんでいた。2人 (2%)
 1世 - 0人
 2世 - 0人
 3世 - 2人
 わからない。覚えていない。73人 (66%)
 1世 - 5人
 2世 - 35人
 3世 - 31人



Q 8) Q 7で選択した項目について、その理由を教えてください。

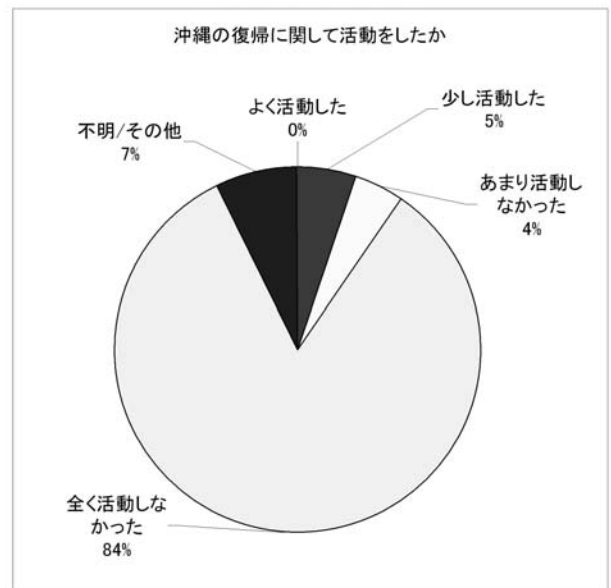
沖縄の復帰に対する祖父母や父母の様子を覚えていたとしても、その理由までは分からないとの回答がほとんどであった。

Q 9) 1960年代に、あなたは沖縄の施政権がアメリカから日本へ返されることに関して、何か活動（例えば集会への参加や、沖縄に協力する活動、沖縄がアメリカになるための活動）を行いましたか？あてはまるところひとつに をつけてください。

よく活動した。0人 (0%)
 少し活動した。6人 (5%)
 1世 - 4人
 2世 - 1人
 3世 - 1人

あまり活動しなかった。5人 (4%)
 1世 - 2人
 2世 - 1人
 3世 - 1人
 まったく活動しなかった。93人 (84%)
 1世 - 13人
 2世 - 36人
 3世 - 41人
 不明その他 - 7%

「少し活動した」は6人 (5%) でそのうち4人は移民1世である。「全く活動しなかった」が84%を占めた。



Q10) Q 9で選択した項目について、その理由を教えてください。

「全く活動しなかった」理由とし、「若かったから」(6人)、「興味がなかった」(3人)、「知識がなかった」(2人)、「知らなかった」(7人)などが挙げられたが、未記入が多数を占めた。

今回、沖縄の日本復帰とは別に、1990年から行われている、「世界のウチナーンチュ大会」についても調査を試みた。

Q11) あなたはこれまでに「世界のウチナーンチュ大会」に参加したことがありますか？あてはまるところひとつに をつけてください。

5回すべて参加した。0人(0%)

2~4回参加した。22人(20%)

1世 - 3人

2世 - 10人

3世 - 9人

1回参加した。32人(29%)

1世 - 6人

2世 - 10人

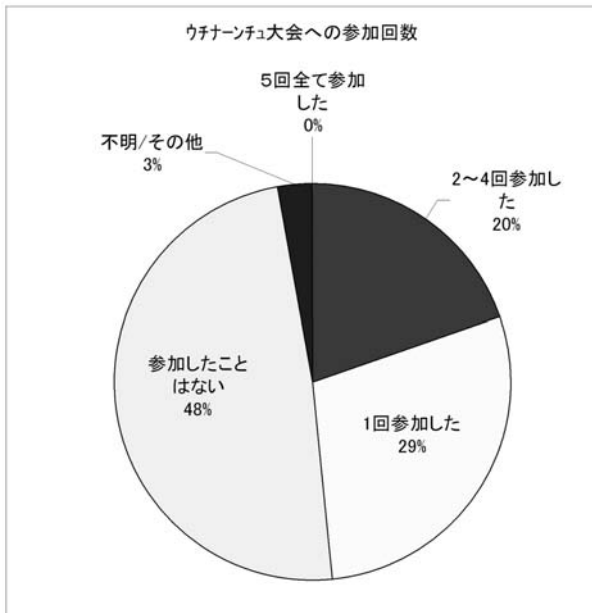
3世 - 15人

参加したことはない。55人(48%)

1世 - 9人

2世 - 22人

3世 - 20人



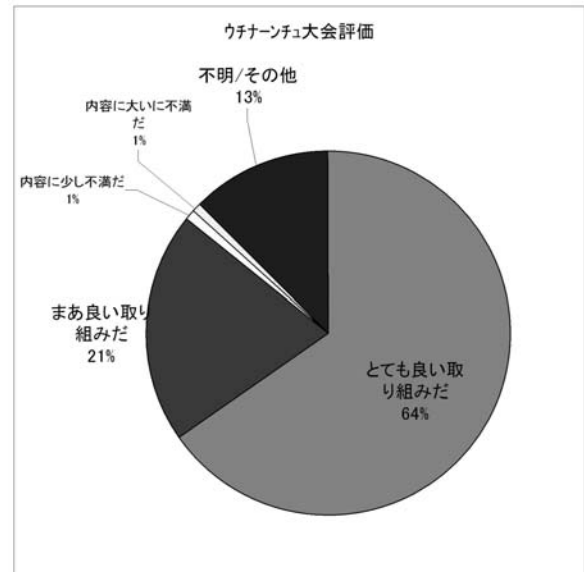
Q12) 「世界のウチナンチュ大会」についてどう思いますか？あてはまるところひとつに をつけてください。

とても良い取り組みだ。73人(64%)

まあ良い取り組みだ。(21%)

内容に少し不満だ。(1%)

内容に大いに不満だ。(1%)



Q13) あなたが持つウチナンチュとしての誇りや自慢は何ですか？

- ・目標を達成するために、みんなで助け合えること。しかし、それが出来なかった時はいつも失敗に終わりました。
- ・H U O Aの発足
- ・食べ物
- ・ユニークで日本のほかの場所と同じではない
- ・連帯と協力の精神を持つ
- ・おもしろい文化
- ・良い人達
- ・ウチナンチュとしてたいへん誇りを持っています。沖縄のユニークな文化に誇りを持っています～沖縄の音楽と踊りを楽しんでいます。
- ・はい！私は非常に誇りを持っています。沖縄の人々は非常に誠実である事と良く働く者を広めたい。
- ・沖縄の人々は進取的で勤勉な人です。幸せそうな性格、ユニークな方言を話す、活発な音楽もある
- ・音楽、踊り、文化
- ・私たちの文化、パーリユー、芸術、精神/スピリット&“アロハ”。
- ・お互いにいつも愛及び忠誠である事。一番誇りに思っている事は若い世代の者が「沖縄人です」という答えを聞くときです。
- ・文化、言葉、芸術、寛大なおもいやりのある性格の人々です。
- ・沖縄は、豊かな文化を大切にしています。弾力と

前向きな性格のある人達、過去にこだわらないが同時に過去を尊重する性格を持つ人々

- ・リッチな歴史、音楽、踊り、空手 ウチナーンチュ精神・スピリット、心から一緒に働き、寛大に提供する性格
- ・ユニークな歴史と文化
- ・ウチナーンチュは謙虚で、自分たちの手を拡張して、ヘルプを提供する
- ・ユニークな歴史、素晴らしい文化の国である事と、ウチナーンチュはたくましい、情深い心を持つ人々である事を誇りに思っています。
- ・団結、頑張り。私はすべてにおいて沖縄人に生まれたことをとても誇りにおもっています。
- ・沖縄独自の文化、祖先崇拜
- ・沖縄独自の文化。仏壇、御先祖を大切にします。
- ・沖縄独自の文化、先祖を大事にする。
- ・祖先崇拜
- ・ウチナーンチュは親切。ヤサシイデス。
- ・心のやさしさ、親切さ、明るさなどです。戦争その他の苦難を味わったからでしょうか。助け合いの精神とか団結心が強い事等。
- ・思いやり、結束力、明るく朗らか。結いまーる、美しい海、歌、三味線、沖縄方言が出来ること。歌詞を読んで人生勉強に役立っている事。
- ・ウチナーンチュ同士の助け合いの心があり、また、情熱とパワーがある。
- ・海外に住むウチナーンチュがここまで発展してきたのは、相互扶助の精神、子弟への教育、文化の継承等が挙げられると思います。次の世代にも是非、受け継いでほしいと願っています。
- ・優しさの絆、共同体
- ・団結心、いちゃりば兄弟の肝心（ちむぐくる）
- ・ハワイにいて、沖縄の歌や踊りを見たり、聞いたりする時、その芸能の奥深さに感動し、ウチナーンチュとしての誇りを覚える。
- ・人間のあたたかさ、おもいやり
- ・私は今、琉球箏曲興陽会ハワイ支部の会員（師範歴32年）で琉球箏曲の伝承、流布のために頑張っておりますが、やっぱり素晴らしい伝統芸能の宝庫である沖縄に生まれ育って、心豊かに、穏やかに育てられてきた喜びではないでしょうかね。
- ・全ての人間、あらゆる文化を受け入れるおおらか

な気質があるように思います。他県の人にはない独特の価値観を持っていると思います。

- ・沖縄の文化、肝心
- ・相手を思いやる心がわいて来る。それはハワイの人にはまけません。沖縄人であれば姉妹のように思われてくるのが不思議
- ・私には沖縄の優れた古典芸能と伝統工芸に誇りを持っています。

Q14) 今、あなたが沖縄に求めること、期待することは何ですか？

「文化と言語を守ってほしい」（20人）、「沖縄の人々が移民した国と親しく交流を深めてほしい」（3人）などの意見があった。

4 おわりに

今回のアンケート調査においては、ハワイ沖縄連合会の全面的な支援を頂いた。特に職員のバーニー宮城氏には翻訳作業をはじめ、諸調整でひとかたならぬご苦勞をおかけした。氏の協力がなければこの調査はできなかった。この場を借りて感謝申し上げます。